

学校広報紙

浦安



東海大学付属浦安高等学校中等部
東海大学付属浦安高等学校

電話：047-351-2371

URL：<http://www.urayasu.tokai.ed.jp/>

編集・発行：東海大学付属浦安高等学校・中等部

2011年のふふふ

事務長 林 知恒



新しい年を迎えて昨年1年を振り返ってみると、やはり東日本大震災が大きな出来事として心に残っています。2011年を表す漢字が1位「絆」2位「災」3位「震」それ以降も震災の色濃い漢字が続いています。わたしの中では否定打消しの「不」が似合う年だったとつくづく感じます。

「不意に訪れた震災という不測の事態に被災した地にある私たちは、不自由や不便を感じこの突然の不幸な状況に不満を感じたこともありました。」と普通の状態を否定打ち消されてしまったなど思うのです。しかし、わたしたちは既にこのような否定的状況から脱出し、立ち上がり、将来を見つめ強い意志を持って前進し始めていると、そして他者への思いやりを持つ心の余裕が、再び戻ってきたと強く感じるのです。今年はいくさんの感動が待っているような気がします。一步一步前進の「歩」から復旧復興の「普」を求め、心の「富」を回復できる年だと確信します。

昨年から今年に「不」がついても前向きな言葉を、今年感謝の意を込めて皆さんに送りましょう。「不眠不休」を3月11日から12日にかけて学校に宿泊した生徒や避難者に対応した先生方、学校の復旧工事に携っている工事関係者の皆さんに。「不要不急」を震災直後に学校や社会の省エネに努めた生徒教職員保護者の皆さんに。

「不撓不屈」を強い意志をもって復旧、復興に頑張っている被災地の皆さんに。

そして

「不老不死」を建学祭で生まれた火の鳥と…私に(フフフ)。

本年が皆さんにとって希望に満ちた、そして感動多き年でありますよう、心よりお祈り申し上げます。

○学校行事から
建学祭(第56回)

10月29日(土)・30日(日)に第56回建学祭が開催されました。今年度の建学祭のテーマは、「What can we do? ～今、私たちにできること～」とし、3.11東日本大震災を体験した私たちに何ができるのか、何をすべきなのかを考えてみました。

1号館正面左手には、高校2年生の制作による巨大折鶴アートを展示しました。震災からの復興を願い、甦ることを意味する「火の鳥」や、今年の漢字にも選ばれた「絆」の文字を折鶴によって描きました。



中等部生は、下の写真のように、学年ごとに日頃の授業成果の展示や、学年のテーマに沿った研究の発表を行いました。



作品展示



研究発表

高校1年生は、学校テーマに沿い、生徒達からのメッセージを被災した人に伝え、参加者・来場者に元気を与える出展を行いました。高校2年生は、前述の巨大折鶴アートに加え、修学旅行で訪れる沖縄をテーマにした様々な出展を行いました。高校3年生は、屋外の模擬店で、来場者に飲食物の提供を行いました。売上げの一部は卒業後に不要になった靴をリベリアに寄付するための費用として活用します。



文化部の展示や実演も行われ、多くの来客に丁寧な説明を行ったり、作品の制作を手伝ったりしていました。



後援会による出店では、東海グッズの販売が行われました。また、同窓会からは、「星野道夫 写真展 ～星のような物語～」の出展や、青山同窓会長による、中等部生への記念講演「自然の宝庫 三番瀬の現状」も行われました。

その他、有志団体による演奏やダンス、シンクロナイズドスイミングなども行われました。



2日間で3,990名の方に来場していただき、盛況のうちに建学祭を終了することができました。ご来場頂いた皆様に、感謝申し上げます。

後期公開授業

11月9日(水)・10日(木)の両日、後期の公開授業が行われました。2日間で186名の保護者が来校し、授業参観をしていただきました。アンケートにてお寄せいただいた貴重なご意見を活かし、授業を進めてまいります。来校していただいた保護者の方々に感謝申し上げます。

S P P 講座

「生きている数学～貯蓄型保険と数学～」

11月10日(木)に中等部でS P P講座「生きている数学～貯蓄型保険と数学～」が行われました。

本校では一昨年から中等部でS P P講座を行い、今年で3回目となります。昨年度に引き続き、メットライフ アリコAVP数理本部長の渡辺有史先生を講師としてお招きし、「保険と数学」について講義していただきました。

今回の講座は、今後の生活に必要な貯蓄や年金保険、すなわち「生きていくための保険」に関して数学的にアプローチしていく内容でした。



高校2年生オープンキャンパス

11月12日(土)に行われた付属生のためのオープンキャンパスでは、参加者全員が緊張の面持ちで目指す学部・学科の説明に真剣に耳を傾け、進路決定に向けての最終確認を行っていました。



中等部3年生NZ英語研修保護者説明会

11月12日(土)保護者を対象に、今年度初めてのニュージーランド英語研修説明会が行われました。今回の説明会は、研修全体の流れをビデオなども使い紹介した後、旅行業者の方からホームステイ家族を探すためのアプリケーションフォームの記入についてなどのお話をいただきました。

今後、2回の説明会にて、レンタル品や外貨交換など、旅行準備に必要な細かい部分の説明や、ホームステイ先の発表などがあります。



○国際交流

ロシア・ガスパロム校交流訪問

12月12日(月)から11日間の日程で、ロシア・ガスパロム校との国際文化交流のため、学園の3つの附属高校から9名の生徒がロシアを訪れました。訪問団は本校、附属高輪台高校、附属翔洋高校から、それぞれ生徒3名と教員1名の合計12名です。本校小坂校長が団長で、本校からは、3年生の榊優哉君(剣道)、2年生の木越夏美さん(書道)、1年生の飯塚智哉君(和太鼓)が参加し、それぞれが得意とする日本の文化を紹介しました。ロシアの生徒たちに大変好評でした。



訪問中、ガスパロム校で、国際教育セミナーが開催され、ヨーロッパ各国の教育者とともに参加した小坂校長が、日本の教育や本校の国際交流について発表を行いました。一団はモスクワでの歴史や文化の見学の後、ノブイ・ウレンゴイという北極圏の街を訪れ、ギムナジウムでの交流やガスパロム社のガス製造工場の見学なども行い、22日の午後、無事に帰国しました。

○その他の話題から

グラウンド復旧工事

ショベルカー、掘削機、高所作業車などの重機がグラウンドの中で動き回り、9月1日から始まった復旧工事が進んでいます。

現在は、グラウンド地盤改良工事やグラウンド周囲の防球ネット支柱の立て替え工事が行われています。



「クリスマスリースアトリウム展」で、準グランプリを獲得

高校2年7組(木下クラス)が、浦安ブライトンホテルで行われていた「クリスマスリースアトリウム展」で、準グランプリを獲得しました。

作品は、浦安を含む被災地への思いと、クラス41名の旅立ちを表したもので、「恩送り～それは恩を返すのではなく送ること～」というタイトルでした。



